

証券コード:7472

“百年の信頼を、未来につなげる”

株式会社鳥羽洋行

決算説明会

2019年5月14日(火)

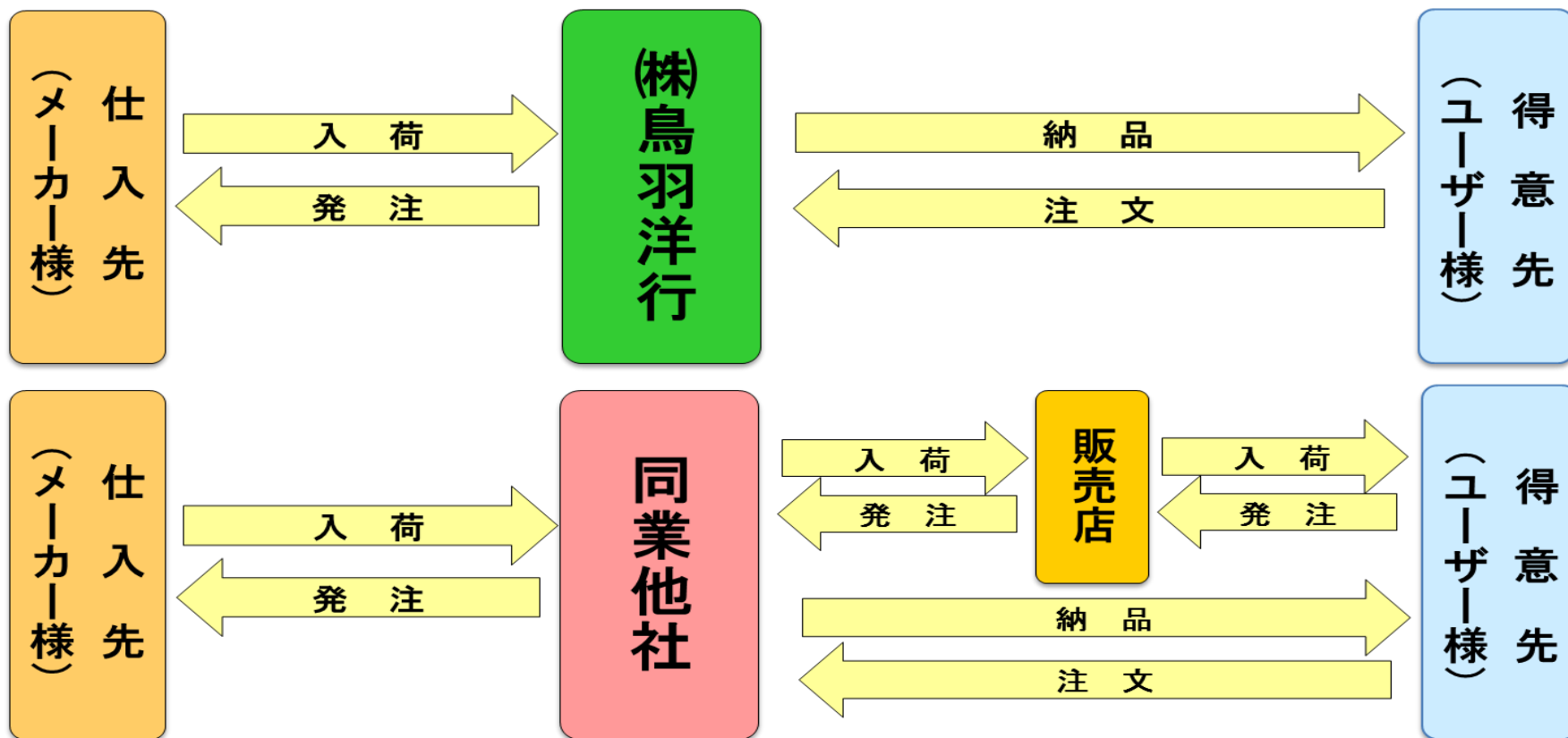


株式会社 鳥羽洋行

- I. (株)鳥羽洋行について
- II. 2019年3月期決算について
- III. 2020年3月期の見通し及び戦略

I. (株)鳥羽洋行について

<当社のビジネススタイル>

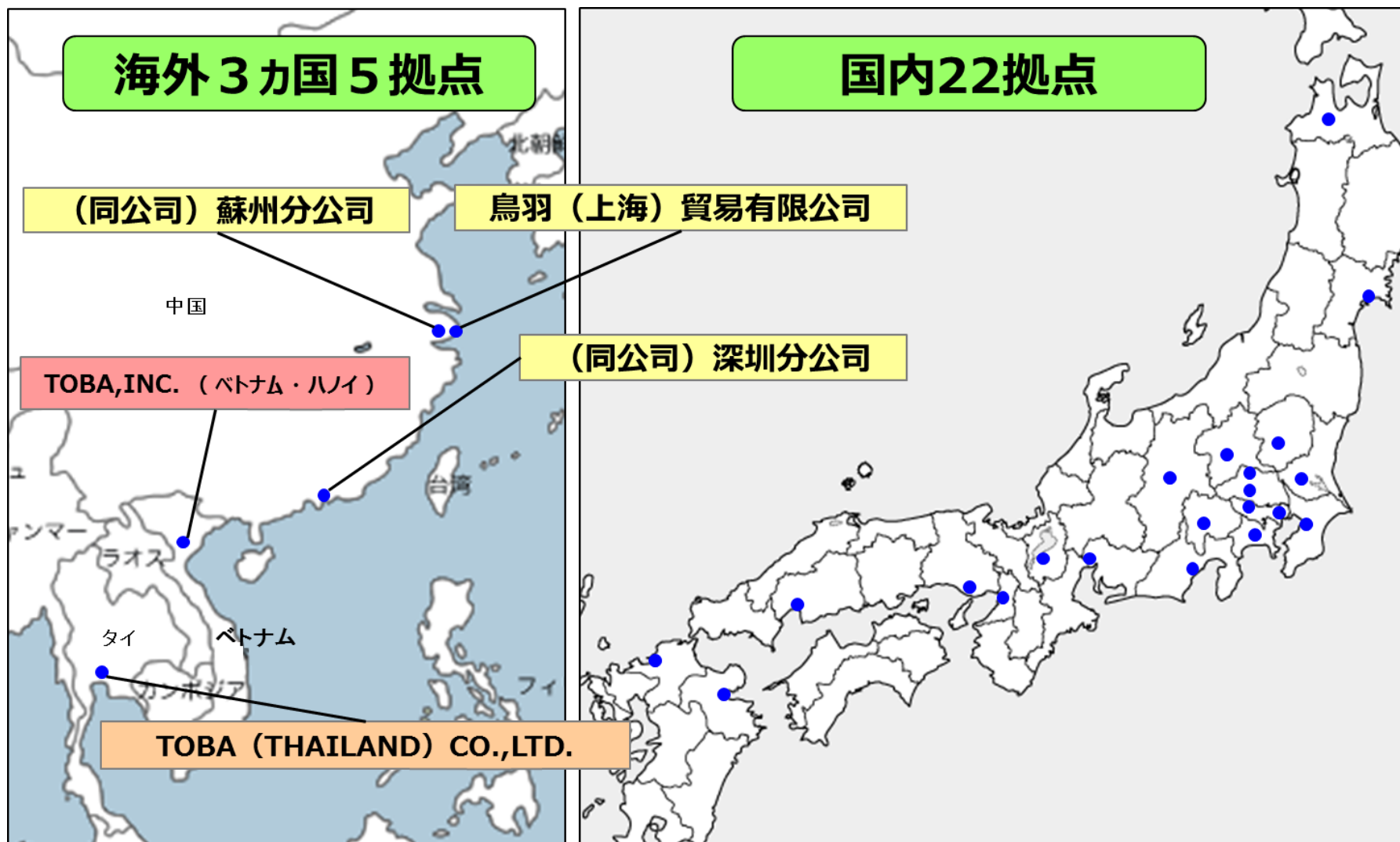


Point !

- 『直接仕入』⇒ 仕入先様から直接製品を購入
- 『直接販売』⇒ ユーザー様工場に直接訪問し販売（直販体制）

I. (株)鳥羽洋行について

<当社の販売ネットワーク>



Ⅱ．2019年3月期決算について

Ⅱ. 2019年3月期決算について

< 2019年3月期 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

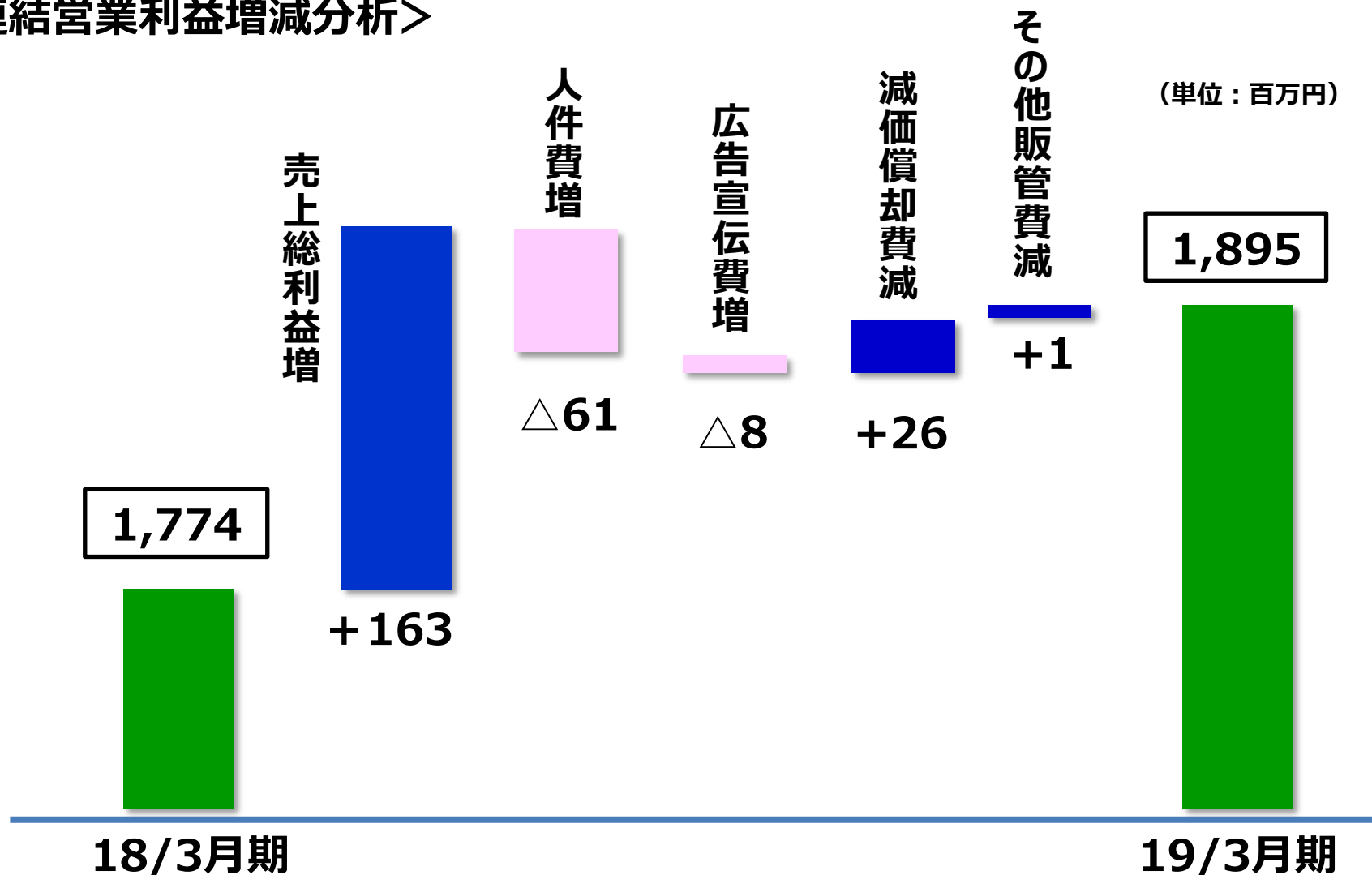
	18/3月期	19/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売上高	28,500	29,066	2.0%	・国内は、電子部品及び半導体・液晶製造装置関連並びに自動車・車載部品向けに増加 ・海外はスマホ市場全体の成長鈍化の影響を受ける
営業利益	1,774	1,895	6.8%	・売上総利益率が、0.2P改善 ・販管費は、前期比1.8%増加
営業利益率	6.2%	6.5%	0.3P増	
経常利益	1,873	2,004	7.0%	
経常利益率	6.6%	6.9%	0.3P増	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,276	1,370	7.3%	
当期純利益率	4.5%	4.7%	0.2P増	

Point !

- 【連結】売上、利益ともに過去最高を達成

Ⅱ. 2019年3月期決算について

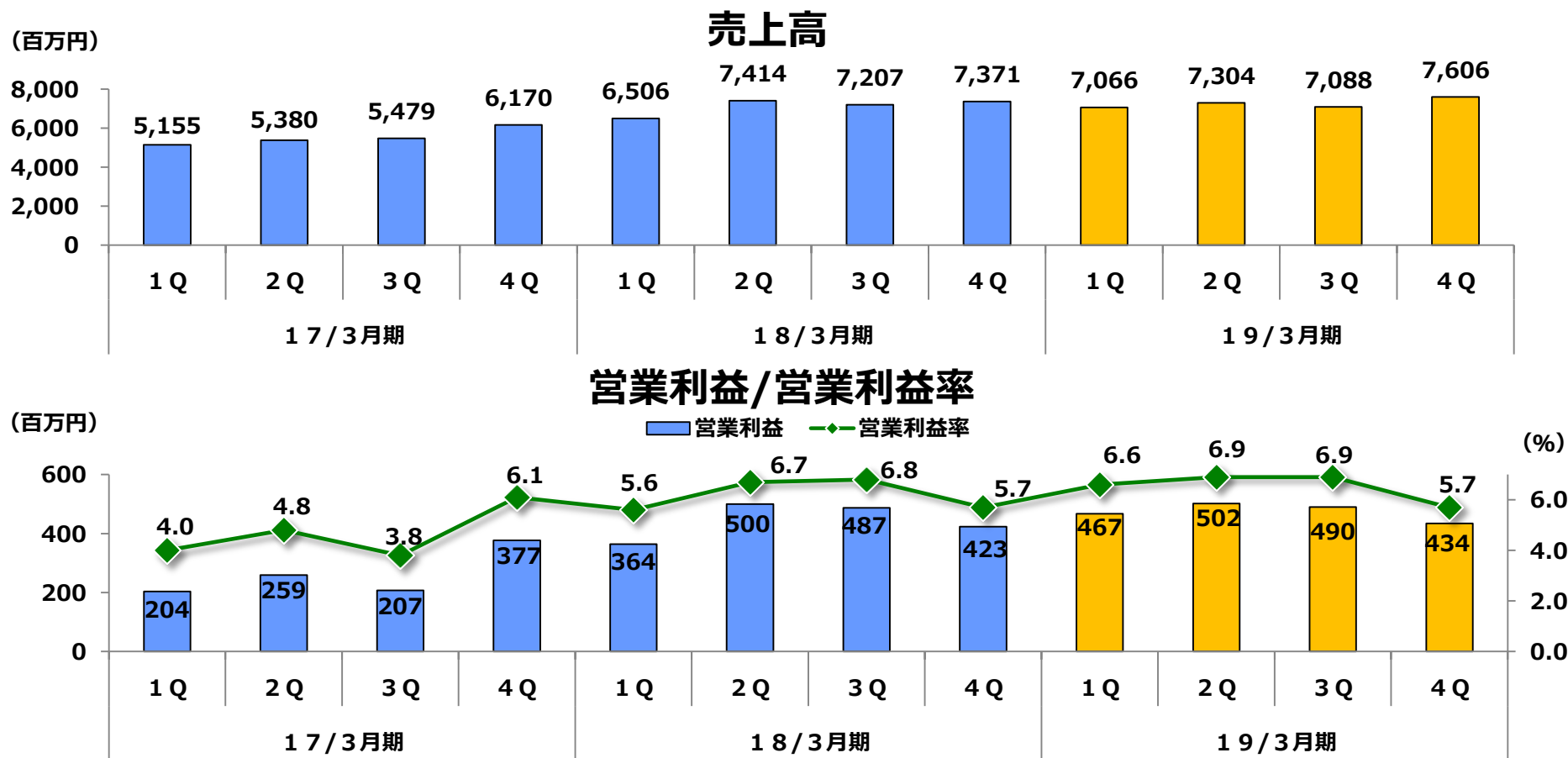
<連結営業利益増減分析>



※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

Ⅱ. 2019年3月期決算について

＜四半期毎の売上高・営業利益の推移＞

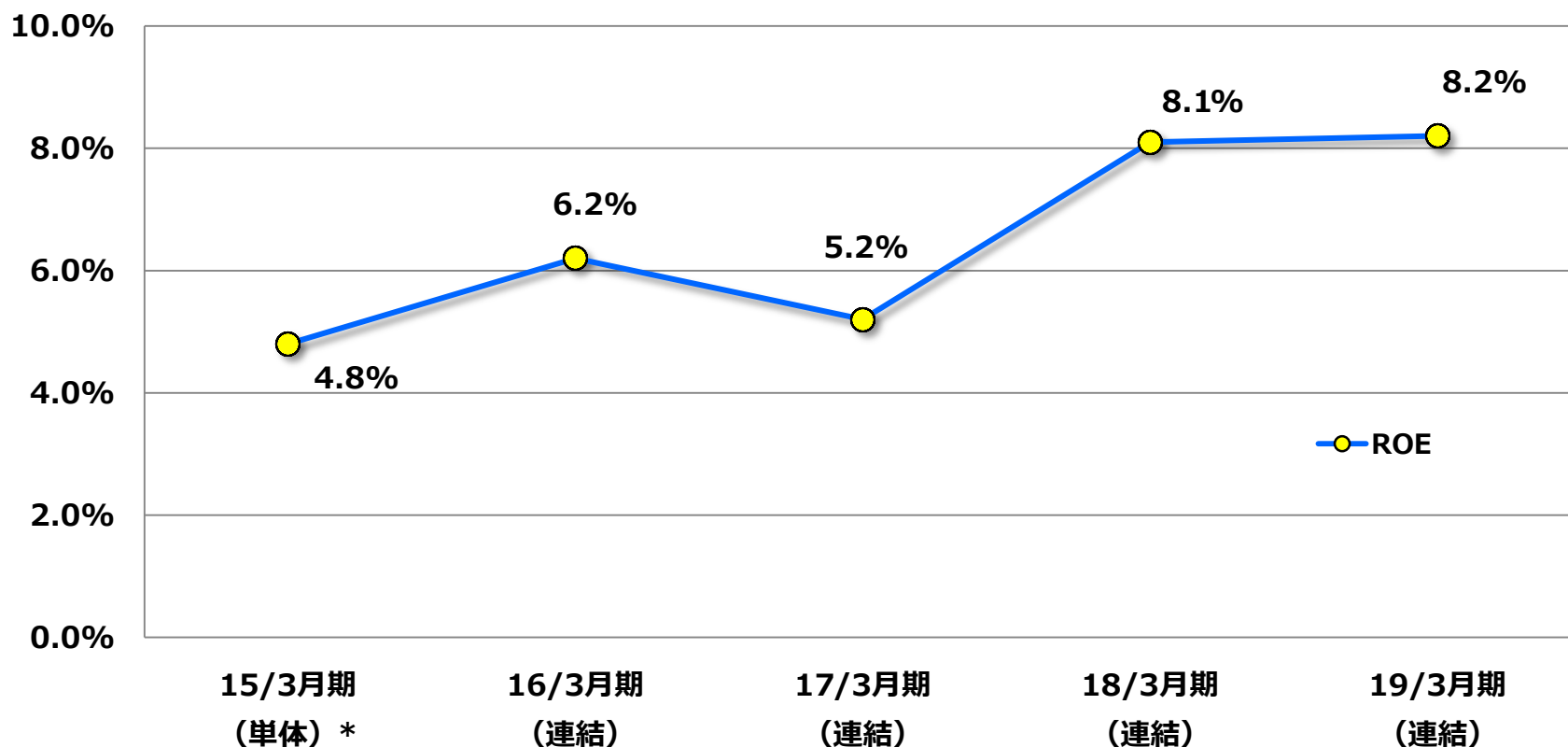


Point !

- 四半期毎の売上高は70億円台を全年で維持

Ⅱ. 2019年3月期決算について

<ROEの推移>



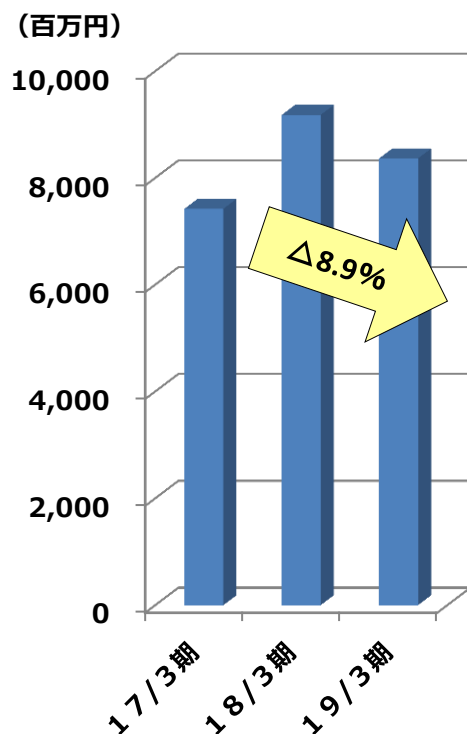
* 15/3月期のROEは単体ベース

■ ROEは**8.5%以上**を目標

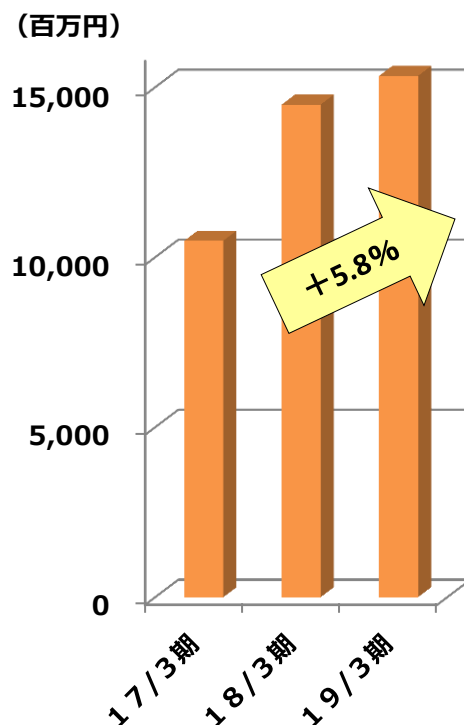
Ⅱ. 2019年3月期決算について

<部門別売上高推移>

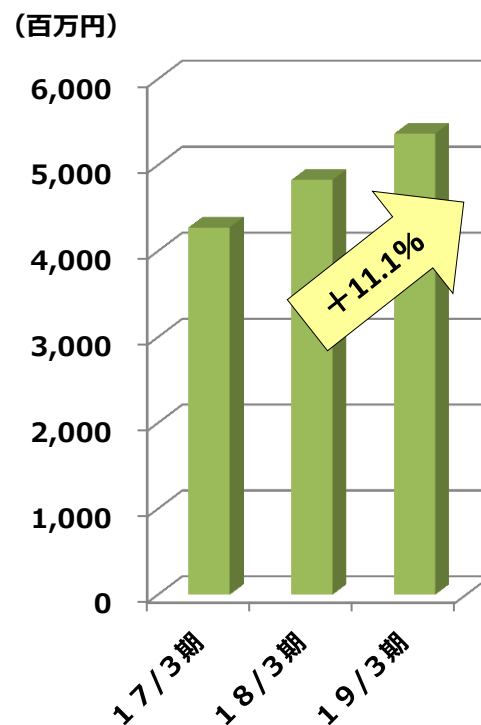
制御機器



F A 機器



産業機器

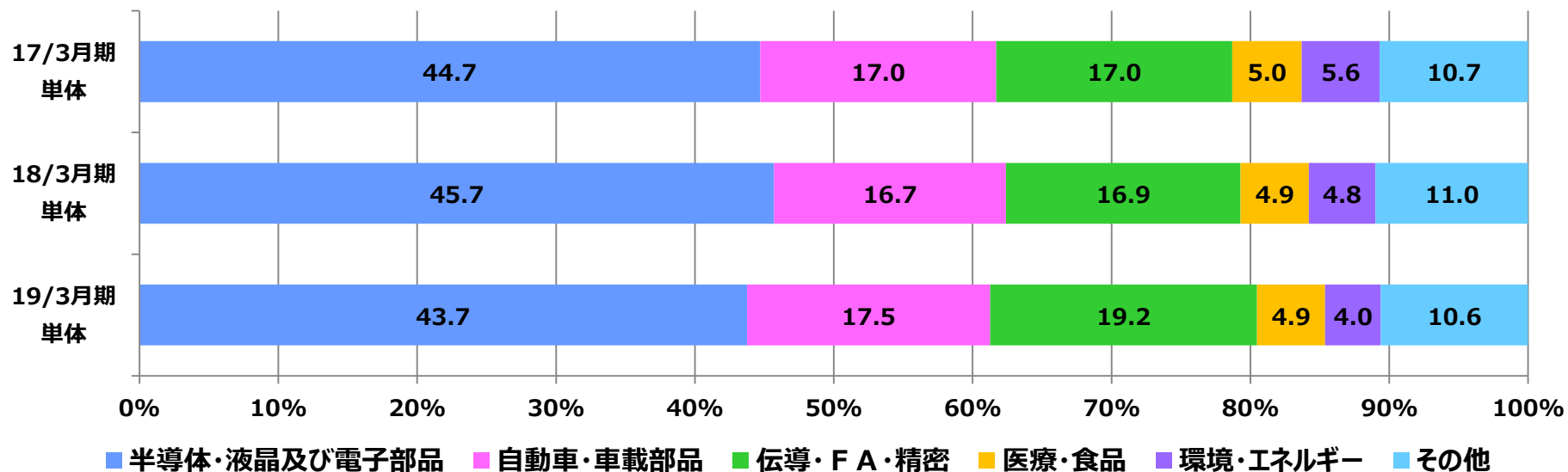


Point !

- 【制御機器】半導体製造装置関連の一部得意先からの受注減少の影響があり、前期比8.9%減
- 【F A 機器】車載部品に関連する得意先からの実装関連の受注が増加し前期比5.8%増
- 【産業機器】半導体に関連する得意先等からのフィルター需要増加。また、自動車・車載部品に関連する得意先へ搬送システムも好調で前期比11.1%増

Ⅱ. 2019年3月期決算について

＜業種別売上構成比（単体）推移＞



Point !

＜半導体・液晶及び電子部品＞

A D A S（先進運転支援システム）、E V車、ハイブリッド車の普及に伴い、自動車向け電子部品、電池関連の得意先向けの販売が堅調に推移

＜自動車・車載部品＞

自動車・車載部品関連の得意先からの実装関連の需要が旺盛であったためシェア拡大

＜伝導・F A・精密＞

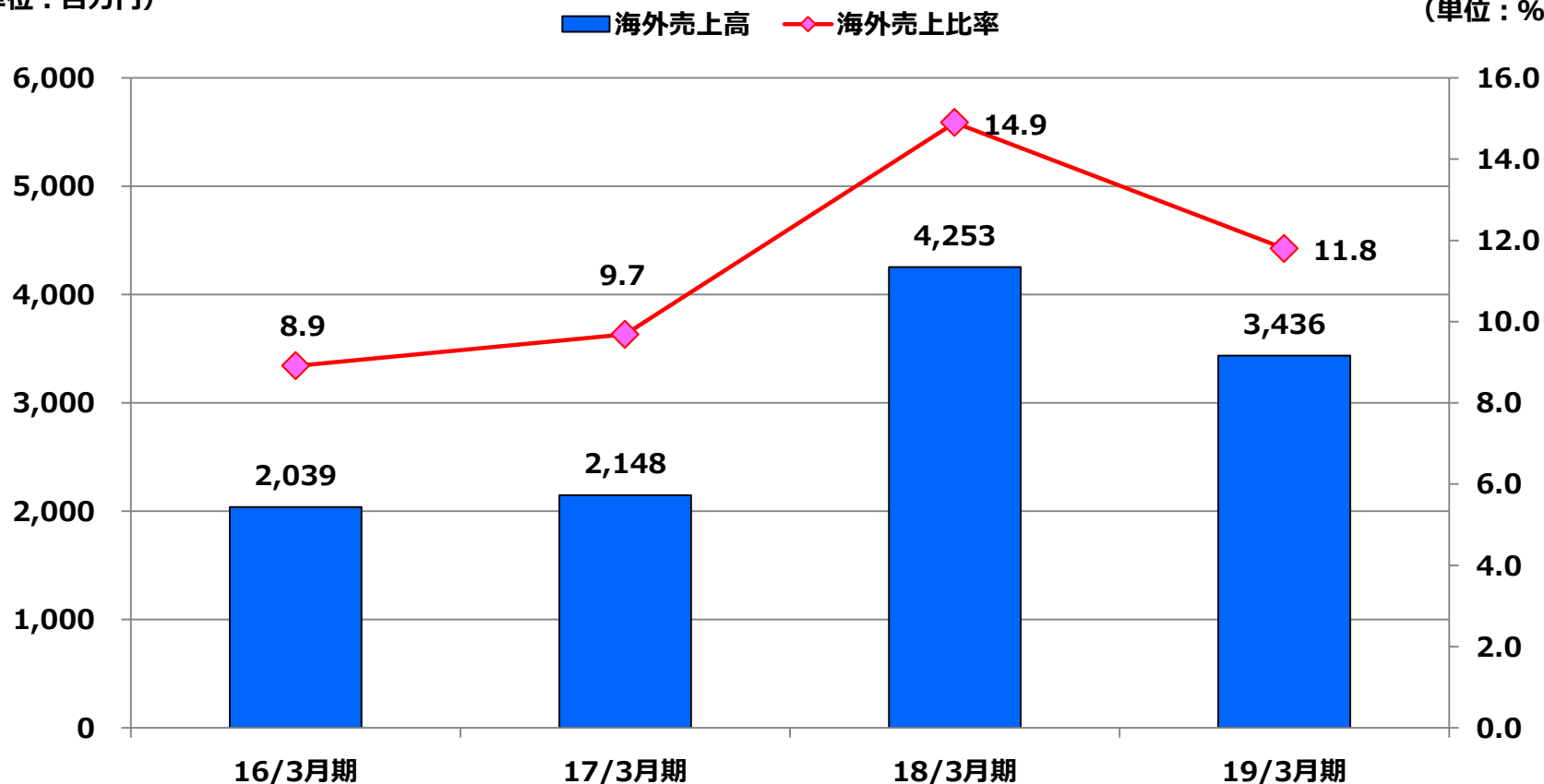
物流システム関連や産業用ロボット関連向け得意先からの制御機器需要が好調

Ⅱ. 2019年3月期決算について

<海外売上高・海外売上比率>

(単位：百万円)

(単位：%)



Point !

- 2018年後半より中国経済の市況悪化の影響を受け、F A 機器の受注が減少し鳥羽（上海）貿易有限公司の売上高が前年割れしたことが主因

Ⅱ. 2019年3月期決算について

<2019年3月期 連結貸借対照表の概要>

(単位：百万円)

	18/3月末	構成比 (%)	19/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	20,808	80.6	22,163	81.3	
現金・預金	9,532	36.9	10,712	39.3	
受取手形・売掛金 ※1	11,056	42.8	11,309	41.5	
商品	133	0.5	97	0.4	
固定資産	5,004	19.4	5,113	18.7	
資産合計	25,813	100.0	27,277	100.0	
流動負債	8,905	34.5	9,898	36.3	
支払手形・買掛金 ※2	8,070	31.3	9,057	33.2	
固定負債	438	1.7	314	1.2	
負債合計	9,344	36.2	10,213	37.4	
純資産合計	16,469	63.8	17,064	62.6	
負債純資産合計	25,813	100.0	27,277	100.0	

(※1) 電子記録債権を含む

(※2) 電子記録債務を含む

Point !

- 構成比に大きな変化はございません。

Ⅱ. 2019年3月期決算について

<連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(単位：百万円)

	18/3月期	19/3月期	2019年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	526	2,172	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益の計上 (+ 2,003百万円) ・仕入債務の増加 (+ 1,005百万円) ・売上債権の増加 (△292百万円) ・法人税等の支払 (△707百万円)
投資活動によるC F	352	△495	<ul style="list-style-type: none"> ・定期預金の払戻 (+ 500百万円) ・定期預金の預入 (△1,000百万円)
財務活動によるC F	△281	△476	<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払 (△476百万円)
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	△19	
現金及び現金同等物の増減額	605	1,180	
現金及び現金同等物の期首残高	8,426	9,031	
現金及び現金同等物の期末残高	9,031	10,211	

Ⅲ． 2020年3月期の見通し及び戦略

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の業績予想>

(単位：百万円)

	19/3月期 (実績)	20/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	29,066	29,500	1.5%
営業利益	1,895	1,920	1.3%
営業利益率	6.5%	6.5%	±0 P
経常利益	2,004	2,020	0.8%
経常利益率	6.9%	6.8%	△0.1 P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,370	1,400	2.2%
当期純利益率	4.7%	4.7%	±0 P

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の市場環境予想①>

◆国内の市場環境

- ・中国、欧州経済の減速から世界経済は不透明感が増しており、輸出企業の業績悪化が懸念されておりますが、国内企業の多くは人手不足を背景とした工場の自動化、省力化のニーズは継続し、設備投資は底堅く推移していくものと予想
- ・自動車、車載部品分野については、ADAS（先進運転支援システム）、EV車（電気自動車）やハイブリッド車などの開発が継続し、電子部品や電池関連の得意先の設備投資は堅調を維持するものと予想
- ・半導体・液晶製造装置に関連する得意先の設備投資は、スマートフォン市場の成長鈍化や半導体の在庫調整局面がしばらく続く影響を受け、踊り場状態が続くものの期の後半からは回復してくるものと予想
- ・スマートフォンに関連する得意先は、2020年より本格導入される次世代通信システム「5G」の開発等に伴い、設備投資は増加していくものと予想

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の市場環境予想②>

◆ 国外の市場環境

- ・米中貿易摩擦の動向が最大の懸念材料であるが、中国国内の内需は底堅く推移しているため、内需型企業の設備投資需要は堅調に推移するものと予想。しかし、輸出型企業の業績悪化は懸念されており、生産拠点を他国へ移転する動きなど注視していく必要がある
- ・米国経済の動向や、英国のE U離脱問題等による世界経済への影響が懸念される
- ・日本国内同様にスマートフォン関連の得意先は、5 G向け設備投資が増加していくものと予想
- ・中国国内では電気自動車開発が進んでいるため、それらに関連する電子部品や電池関連の得意先の設備投資が引き続き拡大していくものと予想

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の戦略①>

◆ 既存得意先への拡販と新規得意先の開拓

- ・当社**主要得意先**である半導体・液晶製造装置、電子部品関連及び自動車・車載部品等への設備投資需要の取り込み
- ・食品工場など**人手不足**を課題としている得意先への、自動化・省力化機器の販売を積極的に展開
- ・「**5G**」に関連する得意先の設備投資需要の取り込み
- ・数年後の定着を見据えた**Eビジネス**の確立（取り扱い商品を拡充など）

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の戦略②>

◆売上拡大施策

・当社主催『**複合展示会**』の開催により、販売商品幅の拡大

・**大型展示会**へ出展し新規顧客の獲得

①**東京ビッグサイト**：『第2回自動化・省人化ロボット展』（2019年7月24～26日）

②**インテックス大阪**：『第22回 [関西]機械要素技術展』（2019年10月2～4日）

◆新商材の発掘

・レーザー機器、ろ過機器（日本インテグリス）につづく新たな商材を発掘

◆海外拠点強化

・海外子会社との連携強化（情報共有し当社販売網の活用）

Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

< (ご参考) 昨年度の展示会出展の様子 >

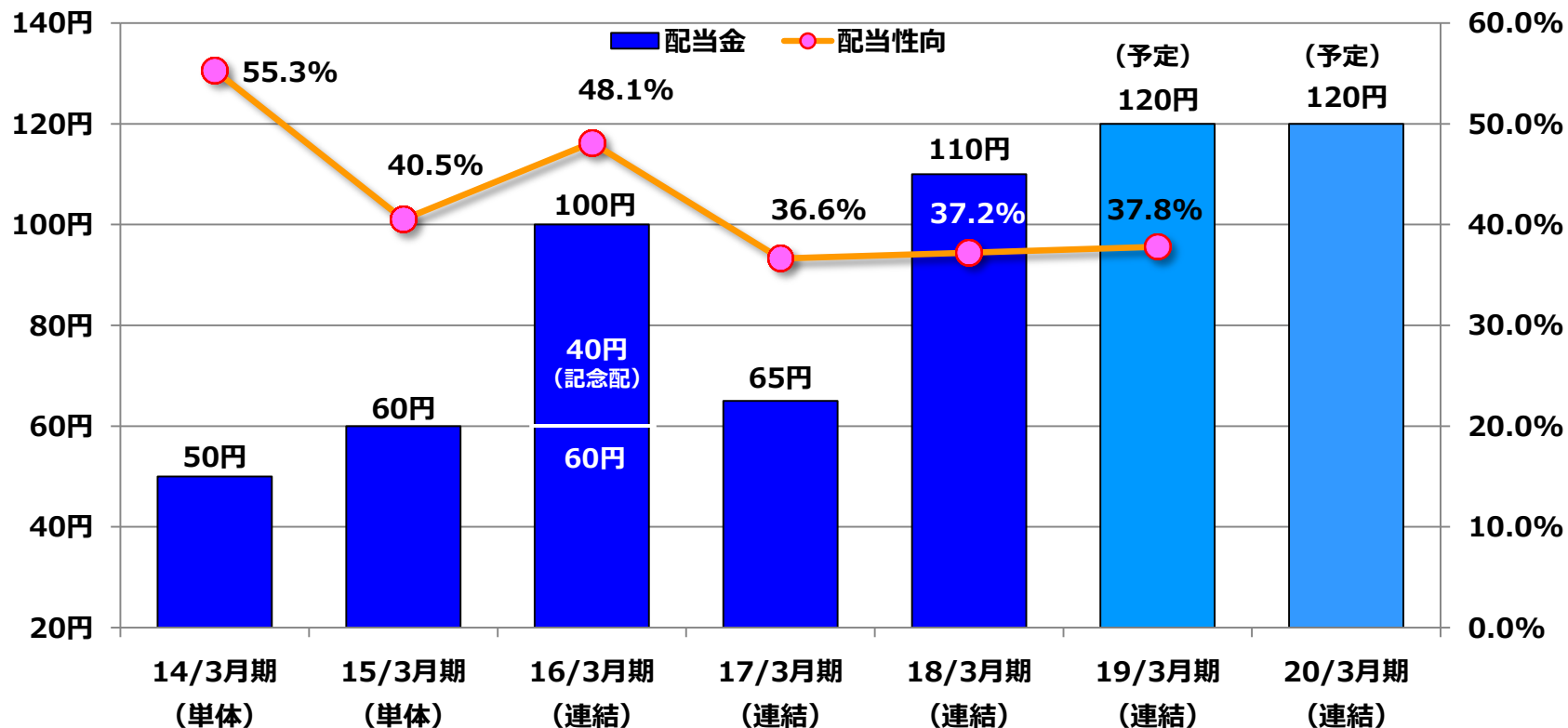
< 第1回生産ロボット展 概要 >

- 開催日時：2018年7月18日（水）～7月20日（金）10時～17時
- 会場：東京ビッグサイト
- 主催：一般社団法人日本能率協会



Ⅲ. 2020年3月期の見通し及び戦略

＜1株当たりの配当金及び配当性向の推移＞



※16/3月期については、創業110周年記念の記念配当金40円が含まれております。

※配当性向については、16/3月期より連結での数字で計算しております。

■ 株主還元方針

- 1株当たりの配当金 **40円** を下限
- 連結配当性向は **35%** 以上

この資料には、2019年5月10日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道 2 丁目 8 番 6 号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp



株式
会社

鳥羽洋行

